

旧作フィルムのアークाइブ事業を強化

映像資産活用の二一ズに対応

東映ラボ・テック 効率的なデータ化実現

東映フボ・テックは、旧作フィルムのアーク
ブ事業を4月から大幅に強化する。これに伴い、
米リーザークラフィックス社のフィルムスキャナ
ー「スキャンステーション」および、姉妹製品の
「スキャンステーションパーソナル」を導入。ネ
ガ原版からフィルムのデータを効率的に取り込む
体制をつくることで、映像資産を活用したいとい
うニーズに対応する。

多い。

同社はこれを受け、旧作が中心となるアーカイブ用途に、スキャンステーションを提案する。アーカイブ事業部長の大津寄宏一取締役は「旧作のネガは、経年変化による

ルタイム以上の速さでスキャンできる。マーカーを光学的な目印にし、映像部分と位置を合わせる「2Dオブチカルピンレジストレーション」によるスタビライズ機能も備えている。

スキャンステーション

トとカットのつなぎ部分が揺れるのでスタビライズ機能が重要となる。当社では実際にネカをかけ、仕上がりを検証している」と説明する。

また、「現在、依頼いただいている作品数はかなりの数にのぼっている。

に使用したい場合や、プレビューに便利だ。

各スキャナはストレージ(DAS)を備え、10ギビイーサネットでサーバーとネットワーク接続した。これにより、データを高速に移動し運用することができた。また、

記録台量が6・0テグ、転送速度は3000メガ/秒であり、大容量データを抱えるのに適している。同社ではアプリケーション作業

スキャンステーション

うことがで
きる。
同社は今
後、フィル
ムスキャナ
ーを使った
アーカイブ
事業を、中
核事業の1
つに位置づ
ける。今後、放送や

保存するので、将来、L
TOテープから取り出し
て4Kで使うなどといっ
たことも可能。ネガの持
つ情報をLogの広い色
域で取っておくので、H
DRで仕上げることもで
きる」と可能性の広さを
指摘する。今後、放送や

「スキヤンステーション」導入

ネガに負担をかけず作業可能に

近年、放送や映像配信サービスの中心に、過去の優れた映像作品が放送されている。18年にはBS・CSによる4K・8K実用放送が開始され、ますます多くの作品が必要となる。

収縮やビネガーシンδροームが起ることが多く、フィルムに対して安全な作業環境をつくらなければならぬ。スクヤンステーションは、スプロケットレス（爪なし）キャプスタンドライブ機構を

ネガに負担を

をかけず作業可能に

クマジックデザイン「シンテル」も運用しており、用途や納期によって最適なものを使い分けていく。塩田氏は、データスキヤンの利点について「映像の解像感やシャープネスが高い。またデータで残されてきた資産をできるだけ多くデジタル化し、お客様が活用できる形にしたい。新しい機材の使用方を早く覚え、作業を進めていきたい」と意気込みをみせている。



制御卓とスキャナー



(左から) 大津寄氏、塩田氏、池田氏



スキャンステーション